

# 私たちのミツシヨンは、人的資本への投資 意欲が高い層の期待に応え、将来の社会を 支える優れた人材を育成し、 ダイバーシティを実現するためにも自己革新を して若い女性から選ばれる塾業界に

eisu group 三重県津市

## 伊藤 奈緒

COO (最高執行責任者)

私たちを必要としてくださる前向きな層に、  
強いリーダーシップを持てるよう自己研鑽すべき

社会は激変しています。その変化は不可逆的なものです。コロナ禍が引き起こしたように見える現象も、実はそれを加速させたにすぎません。そんな社会に適応し生き抜いていくためには、私たち自身が変革する必要があります。一人ひとりの個人、一つの業

す。言い換えれば、こうした層の意欲を喚起し行動へと駆り立てることができる、正しい情報提供、説得力のあるロジックやストーリーを基盤にした発信力が必要です。しかも、個人や塾が単体でバラバラに持つのではなく、業界内で互いにリソースを共有化し合ってベクトルを揃え、業界全体として強い発信力を持つよう努めるべきです。かつて塾の顧客層は、人口的にボリュームゾーンを形成する中流階級でした。この層は集団として大きなニーズを持ち、それに応えることができれば塾は大きな成長を実現できました。しかし、日本経済の長期停滞

による格差社会の進行でこの階級は崩壊しつつあります。今や労働者の半分近くが時間当たり900円程度の最低賃金水準で働いており、また、世帯年収500万以下の層では、コロナ禍もあると言え2019〜20年で補習教育費が30%近く減るような現状です。ただでさえ少子化で子供の数が激減しているうえに、人口多数派層の教育支出が縮小しているのです。高品位教育サービスを提供する塾が対象にできる顧客層は、マスとして考えれば、世帯年収800万以上、人口比で言えばせいぜい2割程度の高所得者層、つまりかつての中流



階級よりも意識が高く、身なり・立ち居振舞いからはじめ、指導サービスに至るまで、

担うべきではないでしょうか？  
もちろん、発信力の裏打ちとして、高い教育投資に見合ったサービス体系を再構築する必要があります。子供たちを勉強にいなごう同質性圧力の働く環境をどうデザインするかとか、学力の根幹にある母国語リ

テラシーをいかに育むかとか、課題は山積みです。しかし業界の皆さんがこれまで構築してきたリソースを結集すれば、教育熱心な層が前のめりで教育投資できるような指導・サービスのイノベーションを引き起こせるものと信じます。

教育熱心な層が前のめりで教育投資できる  
ような、新しいタイプの教育サービスを

そもそも私たちは公教育ではありません。民間教育です。セーフティネットを張って困っている多数の人たちを救済したり、教育熱心でない人たちに無理やり教育を与えたりする義務はありません。私たちのミッションは、人的資本への投資意欲が高い層の期待に応え、将来の社会を支える優れた人材育成を実現することです。

生徒の半分は女子ですし、保護者会に来る保護者の約7割が母親、すなわち女性なのに、それを迎える私たちの方はほぼ男性ばかり。これは明らかにアンバランスです。そもそも同性だからこそ共感でき通じ合える部分もあるのですから、保護者対応などはむしろ女性の方が向いていると思います。

業界に対する提言がこういう厳しい口調になつてしまつたには、この業界は社会の継続や発展に絶対に必要だと強く信じているからです。公教育のような、社会の全成員に対して標準的能力の担保を目指すポトムアップ型の教育はもちろん大切です。しかし民間教育のような、集団を先導できる高い能力を持った人材を育てるリーダー育成型の教育こそ、社会の発展には必要不可欠なのです。

しかし、こうした層であっても、たとえば「なぜ子供に勉強させるのか？」という問いに対して、必ずしも確固としたロジックやストーリーを持って答えることができるわけではありません。公教育や政治を巡る言葉は常に多数派受けを志向していますから、そこに代弁者は見出せません。ましてやメディアやネットでは時にバズらせる

入ってきてもらえるかが、これからの業界全体の命運を握っていると考えています。雇用形態や働き方もフレキシブルになつてきている時代です。若い女性たちから選ばれるような業界へと進化していかなければ、この業界は社会全体から淘汰されていかねません。

若い女性が活躍できる場がデザインされてはじめて、年長の男性たちが蓄積してきた経験やスキルもまた生かされ、そこにイ

あらゆる要求が高水準な層になつてしまつているのです。

の目的とした無責任な教育論議が溢れかえり、混乱に拍車をかけています。そこで私たちは、こうした層の迷いを払い除け、核心を突くメッセージを発信し、彼らにもう一歩踏み込んで教育に投資していただくよう促す、強いリーダーシップを持つべきなのです。

私は年に数十回のペースで内部顧客にセミナーや説明会を行っていますが、「それを言つてほしかったー」「普段からそう感じていたけど、やはりそうですよねー」という反応を非常に多くいただきます。教育熱心な層は、知識を教えるだけの人を求めているのでは決してありません。自分の思いや本音を代弁してくれる教育上のリーダーを求めています。私たち塾こそ、その役割を

### ダイバーシティの理念に即した、 塾業界全体の新陳代謝の促進を

本誌100号記念でもお話しさせていた  
だいたことがありますが、もう一度強調したいのは、学習塾・予備校業界の人材モデルの古さです。ダイバーシティや女性の活躍推進は社会全体が進みつつありますが、学習塾・予備校業界は、いまだに男性中心の人材モデルを引きずつているように感じられます。

ノベーションが生まれるのだと思います。ダイバーシテイ本来の趣旨、すなわち、一人ひとりが希少価値を持つて全体を活性化させるという理念に即した、業界全体の「新陳代謝」の促進が急務だと感じます。

リーダたちを育成してきたのは私たち民間教育のほうです。私たちこそが日本を支えてきた！そんな誇りを、この業界の皆さんはお持ちなのではないでしょうか？

だからこそ、これからのような存在であり続けるために、私たちの自己革新が必要で。私たち全てが自分の仕事に誇りを感じることで、今以上のプレゼンスを社会に対して発揮できる魅力ある業界を、皆で結束して築いてまいりましょう。

- eisu group
- eisu 小中部 「東進」
- eisu 高校部 「T・MEG」
- 個別指導会 「E・MEG」
- 家庭学習 「eドリル (オンライン)」
- 「セイン英語ジム (オンライン)」
- 「単語塾」
- 自立学習 「パズル道場」
- 「nice」他